

2018年6月16日(土)

日本国際経済学会第8回春季大会(北海道大学)

**メキシコ自動車部品の日系自動車メーカーのグローバル経営の可能性に関する文献調査研究**

竹野 忠弘(名古屋工業大学)

本報告では、メキシコ現地のローカル・自動車部品企業の日系自動車グローバル・メーカーとの製品取引仕様に関する調査研究論文や報告書における叙述・追加インタビュー分析をもとに、あらためて2015年に提示された日系自動車メーカーのメキシコ新工場・環境対応工場プロジェクトにおいて提起された「グローバル連携・協働的共生」が、企業の国際投資・経営活動と並行して進展しうる可能性のあること、さらにはそれを進展させるための経営の現場が留意すべき事項について指摘する。なお報告の構成は以下のとおり。

1. 課題設定：メキシコの伝統的二重構造と日系メーカーとの自動車部品ビジネスにおける解消可能性
  - (1)メキシコ自動車・同部品ビジネスの概要・歴史沿革・構造・統計
  - (2)メキシコの伝統的二重構造の現況統計と歴史的構造
  - (3)製造・ものづくりによる解消可能性
2. 本論・調査結果：グローバル取引事例における取引形態の検討：①仕様(Q)、②価格(C)、③短納期(D)
  - (1)部品組立企業群、(2)金属加工企業群、(3)ソフトウェア企業群、(4)その他
3. 分析：日系自動車メーカーとのグローバル連携関係
  - (1)連携形態、(2)2015年環境工場プロジェクト(対米関係・2017年の生産車種変更)進展との関係
  - (3)メキシコ現地部品産業集積の可能性、(4)付加価値の可能性
4. 結論：日系自動車メーカーのグローバル経営活動のグローバル共生実現可能性と促進要因